

表4 シンナーを誘われた経験の有無と薬物関連問題との相関

	シンナーへ誘われた経験あり (N=465)	シンナーへ誘われ経験なし (N=2899)	有意差
飲酒状況			p<0.005
正常群	11.4 (%)	52.5 (%)	
飲酒群	53.4	40.5	
問題飲酒群	35.2	7.0	
喫煙経験			p<0.005
喫煙経験なし	8.4	53.9	
過去に喫煙経験あり	15.9	23.3	
現在喫煙している	75.7	22.7	
シンナーへの意識			p<0.005
法律で禁止なのでやらない	24.4	30.5	
怖いからやらない	57.6	68.1	
誘われたらやってみたい	18.0	1.4	
シンナーを吸う人を知っている	84.8	21.1	p<0.005
シンナー吸引経験あり	33.2	0.7	p<0.005
大麻への意識			p<0.005
法律で禁止なのでやらない	27.0	32.5	
怖いからやらない	57.5	65.9	
誘われたらやってみたい	15.6	1.5	
大麻を吸う人を知っている	23.7	2.8	p<0.005
大麻の誘いの経験あり	13.3	0.6	p<0.005
大麻使用経験あり	5.4	0.1	p<0.005
覚醒剤への意識			p<0.005
法律で禁止なのでやらない	24.9	33.2	
怖いのでやらない	66.0	65.5	
誘われたらやってみたい	9.1	1.3	
覚醒剤を使う人を知っている	28.7	3.3	p<0.005
覚醒剤の誘いの経験あり	13.4	0.7	p<0.005
覚醒剤使用経験あり	3.9	0.3	p<0.005

表5 飲酒・喫煙・薬物乱用の集積状況

	シンナー経験者 (N=174)	大麻経験者 (N=37)	覚醒剤経験者 (N=28)
飲酒状態 (QF スケール)			
正常群	9.8 (%)	13.5 (%)	17.9 (%)
飲酒群	47.1	21.6	21.4
問題飲酒群	43.1	64.9	60.7
喫煙状態			
喫煙経験なし	1.1	10.8	7.1
過去に経験あり	6.9	8.1	3.6
現在喫煙している	92.0	78.4	89.3
シンナー経験			
なし	—	37.8	39.3
あり	—	62.2	60.7

は大麻経験者の62.2%、覚醒剤経験者の60.7%に存在していた。すなわち、高校生の薬物乱用は集積しており、すでに多剤乱用傾向が認められるということである。この表で、シンナー経験者の中の問題飲酒群の頻度が5割を切って低いのは、フラッシャーであるシンナー経験者は酒が飲めないということと関連しているのであろう。

IV. 考 察

この研究は高校生の薬物乱用について、シンナーだけでなく大麻・覚醒剤などの違法性薬物の使用経験にまで踏み込んだ初めての調査である。しかしこの調査はあくまでパイロットスタディの位置付けしかできない。なぜなら調査対象が神奈川県と九州地方に限定されているばかりでなく、調査が可能であった8つの高校は、我々の熱意を理解してくれた教師が存在していたこと、言い方を変えれば、薬物問題に強い関心を持っている教師たちが発言力を持っている高校にのみ限定されており、おのずからそこにバイアスが入っているからである。

しかし現在はまだ高校生の学校単位の薬物関連問題の調査には困難がつきまとう。例えば筆者らが行った飲酒・喫煙についての中学生・高校生の全国調査(1996)の回収率は63%であったが、和田ら(1997)の中学生のシンナー関連問題の全国調査の場合は回収率は51%と低く、しかも回答率がゼロで意図的な拒否とも推定される県が8県も存在していた。こうした状況はこのパイロットスタディの重要性を示していると考えられる。

この調査研究の意義は、高校生の中に飲酒・喫煙・シンナー乱用ばかりでなく、大麻・覚醒剤も浸透していることを、大麻・覚醒剤の使用経験にまで踏み込んだ質問によって明らかにしたことである。福井ら(1997)は薬物問題の世帯別調査において、15才以上の5千人の中で、有機溶剤使用経験者1.8%、大麻使用経験者0.5%、覚醒剤使用経験者0.3%が存在していると報告しているが、この調査から高校生においてはそれ以上に薬物が浸透していると推定される。さらにこの調査の意義は、高校生において飲酒・喫煙・薬物乱用は相互に強く結びついていること、高校生においてすでに多剤乱用が存在していることを明らかにしたことである。

この調査研究の対象となった高校生の特性をまず明らかにしなければならない。対象の飲酒状況は、問題飲酒群が10.9%であり、1996年の全国調査における問題飲酒群13.9%と比較してやや低い水準にある。一方、対象の高校生の毎日喫煙者の頻度は23.5%であり、1996年の全国調査の毎日喫煙者18.2%と比較して高い水準にある。シンナー乱用について過去の調査と今回の調査結果と比較すると、和田ら(1996)の中学生の全国調査ではシンナー経験者が1.1%存在していたと報告しており、今回の調査の5.1%は、はるかに高い頻度である。筆者らは1991年の高校生14000人の飲酒問題の調査で、シンナー経験についても質問し4.3%のシンナー経験者が存在することを報告したがその頻度よりも高い。最近の調査では、野津ら(1997)は秋田県の全高校においてサンプル調査を行い、6900人の高校生のうちシンナーに誘われた経験を持つ者は3.4%存在したと報告し、遠賀保健所(1997)の管内の1800名の高校生にシンナーについての調査では、5.0%がシンナーに誘われたことがあり、3.5%のシンナー経験者が存在したと報告しており、藤林ら(1996)の佐賀県内の2400人の高校生の調査では、シンナーの誘いを経験している生徒は5.0%と報告されている。今回の調査対象のシンナー関連問題の頻度は高い水準にある。

大麻と覚醒剤についての過去の調査と今回の調査を比較すると、大麻の誘いを受けたことがある高校生の頻度は秋田の調査(1997)では1.3%、佐賀の調査(1996)では1.6%と報告されており、今回の調査対象の方が高い頻度である。覚醒剤の誘いを経験した高校生の頻度は、秋田(1997)の調査では2.6%、佐賀の調査(1996)では1.1%であり、秋田の調査結果と今回の調査結果とは同じ水準であった。

シンナー乱用が飲酒・喫煙と高い相関があることは、和田ら(1996)が中学生の調査において指摘し、筆者らも高校生の調査で明らかにしてきたが、今回の調査では飲酒・喫煙がシンナー乱用と相関しているばかりでなく大麻、覚醒剤とも高い相関が認められた。このことは高校生の薬物関連問題の第1次予防において、禁煙教育・アルコール健康教育・薬物乱用防止教育が統一的な視点で行われなければならないことを示している。同時にこの調査からすでに多剤乱用の状態にあると推定される高校生が存在していたことから、高校

における第2次予防の対策が立てられなければならないことも明らかになった。

V. 結 語

今回の調査はパイロットスタディであったが、高校生の3400人規模の調査を行い、シンナー・大麻・覚醒剤の経験者を抽出し、飲酒・喫煙・薬物乱用が強い結びつきを持っていることを明らかにし、高校生の中にすでに多剤乱用者が存在していることを明らかにした。この結果は、高校における薬物乱用防止教育が単独では効果がなく、アルコール健康教育、禁煙教育と結びついて行わなければならないことを示しており、また問題飲酒群、現在喫煙群、薬物乱用群などのハイリスクグループに対する指導援助の方策が必要であることも示している。

また、疫学的に高校生における全国的な薬物乱用の実態を明らかにするために、現在の段階では学校単位での全国調査には困難があり、世帯別調査が必要と考えられる。

VI. 文 献

鈴木健二、松下幸生、樋口進、武田綾：未成年者の問題飲酒スケール（QFスケール）、アルコール研究と薬物依存，29：168-178，1994。

鈴木健二：未成年者のアルコール問題。樋口編：アルコール臨床研究のフロントライン，厚健出版，東京1996。

鈴木健二：若年者の飲酒問題。臨床科学，35：58-64，1999。

総務庁青少年対策本部：青少年の薬物認識と非行に関する研究調査報告書，1998。

野津有司、渡部基、岩井浩一：秋田県における青少年危険行動調査（1997年）の試み—その1、調査内容・方法と主な危険行動野実態—，第45回日本学校保健学会，1998。

福井進、和田清、菊地周一、尾崎茂、浦田重治郎：薬物乱用・依存の世帯調査。「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」平成9年度研究報告書，1997。

福岡県遠賀保健所：地域保健推進特別事業（シンナー乱用防止対策モデル事業）報告書，1997。

藤林武史、佐藤武：高校生の精神作用物質に対する

関心と接近度。日本アルコール・薬物医学会雑誌，32 456-457，1997。

箕輪真澄、鈴木健二、和田清、尾崎米厚：1996年度未成年者の飲酒行動に関する全国調査報告書，1997。

箕輪真澄、鈴木健二、和田清、尾崎米厚：1996年度未成年者の喫煙行動に関する全国調査報告書，1997。

横浜市学校保健会高等学校支部研究委員会：現代の高校生像—市立高校生の生活実態調査を通して—，1998。

和田清、勝野真吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」平成8年度研究報告書，1996。

資料

調査用紙：別紙

アルコール・ドラッグへの関心度調査

高校生の飲酒やドラッグへの関心についての調査です。以下に質問といくつかの答が用意されていますので、当てはまる番号に○をつけて下さい。

年齢（ 才） 高校 年生 性別（男 女）

- 1 あなたは今までにお酒を飲んだことがありますか
 1 お酒を飲んだことはない
 2 お酒を飲んだことはある
- 2 あなたはこの一年間に、どのくらいの割合でお酒を飲んでいますか
 1 飲まない
 2 年に1～2回飲む
 3 月に1～2回飲む
 4 週に1回くらい飲む
 5 週に2回以上飲む
- 3 あなたはお酒を飲む時に、平均してどの位の量飲みますか（ビールとして考える）
 1 飲まない
 2 コップに1杯かそれ以下
 3 コップに2杯
 4 コップに3～6杯
 5 コップに6杯以上
- 4 あなたは誰とお酒を飲んでいますか（○はいくつでも良い）
 1 飲まない
 2 家族や親戚の人達と飲む
 3 先輩と飲む
 4 友達と飲む
 5 一人で飲む
- 5 あなたはタバコを吸いますか
 1 今まで吸ったことがない
 2 過去に吸ったことがある
 3 今時々吸う
 4 ほぼ毎日吸っている
- 6 あなたはシンナー（トルエン、ボンドなどを含む）についてどう考えますか
 1 法律で禁止されているので使いたくない
 2 怖いのでやりたくない
 3 誘われたら使ってみたい
- 7 あなたの身近でシンナーを吸っている人を知っていますか
 1 知らない
 2 知っている
- 8 あなたはシンナーを誘われたことがありますか
 1 誘われたことはない
 2 誘われたことがある
- 9 あなたはシンナー遊びをやったことがありますか
 1 ない
 2 過去にやったことがある
 3 最近一年間の間にやったことがある
- 10 シンナーの害について知っていることに丸印をつけて下さい（○はいくつでもよい）
 1 深く吸い過ぎて死んでしまうことがある
 2 やめられなくなって依存症になる
 3 神経がやられて歩けなくなる
 4 精神病のようになる
 5 無気力で何もやる気がなくなりイライラして怒りっぽくなる
- 11 あなたは大麻（マリファナ・ハシッシなど）についてどう考えますか
 1 法律で禁止されているので使いたくない
 2 怖いので吸いたくない
 3 誘われたら吸って見たい
- 12 あなたは身近で大麻を吸っている人を知っていますか
 1 知らない
 2 知っている
- 13 あなたは大麻を誘われたことがありますか
 1 誘われたことはない
 2 誘われたことがある
- 14 あなたは大麻を吸ったことがありますか
 1 ない
 2 過去に吸ったことがある
 3 最近一年間の間に吸ったことがある
- 15 大麻の害について知っていることに丸印をつけて下さい（○はいくつでもよい）
 1 やめられなくなって依存症になる
 2 精神病のようになる
 3 何もやる気がなくなり無気力となる
- 16 あなたは覚醒剤についてどう考えますか
 1 法律で禁止されているので使いたくない
 2 怖いので使いたくない
 3 誘われたら使ってみたい
- 17 あなたの身近で覚醒剤を使っている人を知っていますか
 1 知らない
 2 知っている
- 18 あなたは覚醒剤を誘われたことがありますか
 1 誘われたことはない
 2 誘われたことがある
- 19 あなたは覚醒剤を使ったことがありますか
 1 ない
 2 過去に使ったことがある
 3 最近一年間に使ったことがある
- 20 覚醒剤の害について知っていることに丸印をつけて下さい（○はいくつでもよい）
 1 やめられなくなって依存症になる
 2 精神病のようになる
 3 何もやる気がなくなり無気力になる
 4 フラッシュバック（何かのストレスで幻聴が再現する）がある
- 21 未成年者の飲酒が増えています、そのことをどう考えますか
 1 未成年者の飲酒はかまわないと思う
 2 未成年者の飲酒はよくないと思う
 3 よくわからない
- 22 未成年者の飲酒が増えている原因をどう考えていますか（○はいくつでもよい）
 1 親が子どもに飲ませている
 2 子供向きの甘いお酒が出回っている
 3 自動販売機やコンビニでは子どもでもお酒が自由に買える
 4 テレビのコマーシャルなどお酒の宣伝が多すぎる
 5 警察が取り締まらない
 6 子どもの飲酒がいけないことを学校で教えていない
 7 子どもが自由に判断する時代になっている
 8 その他（ ）
- 23 あなたは未成年者の飲酒を禁止している法律をどう思いますか
 1 法律は正しいので、未成年者は飲むべきでないと思う
 2 法律はあるが、少しなら飲んでほしいと思う
 3 飲む飲まないは個人の自由だと思う
 4 よくわからない
 5 その他（ ）
- 24 未成年者の飲酒をこれ以上増やさないための方法について（○はいくつでもよい）
 1 親が子どもに飲ませないようにする
 2 子供向きの甘いお酒を売らない
 3 自動販売機を廃止し、コンビニでも子どもにお酒を売らないようにする
 4 テレビのコマーシャルなどのお酒の宣伝を減らす
 5 警察が厳しく取り締まる
 6 子どもが飲酒がいけないことを学校で教える
 7 子どもが法律をちゃんと守るようにする
 8 その他（ ）

III. 研 究 組 織

「中毒者のアフターケアに関する研究」研究組織

平成10年度

主任研究者	研究協力者	施設・役職	住 所	TEL・FAX
内村 英幸		国立肥前療養所 所長	〒842-0192 佐賀県神埼郡東脊振村大字三津160	0952-52-3231 0952-53-2864

分担研究者	研究協力者	施設・役職	住 所	TEL・FAX
村上 優		国立肥前療養所 医長	〒842-0192 佐賀県神埼郡東脊振村大字三津160	0952-52-3231 0952-53-2864
	杠 岳文	国立肥前療養所 医長		
	吉住 昭	国立肥前療養所 医長		
	西村 直之	国立肥前療養所 医師		
	遠藤 光一	国立肥前療養所 医師		
	比江島誠人	国立肥前療養所 医師		
原井 宏明		国立療養所菊池病院 医師	〒861-1116 熊本県菊池郡合志町福原208	096-248-2111 096-248-4559
内田 博文		九州大学法学部 教授	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1	092-642-3182 092-642-3165
	金 尚均	西南大学法学部 教授	〒814-0021 福岡市相良区荒江3-34-18-802	092-822-0371 092-822-0371
	大薮志保子	九州大学法学部	〒813-0016 福岡市東区香椎浜4-2-5-1203	092-663-4270 092-611-7912
鈴木 健二		国立療養所久里浜病院 医長	〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1	0468-48-1550 0468-49-7743
	武田 綾	国立療養所久里浜病院		
近藤 恒夫		日本ダルク本部	〒111-0042 東京都台東区寿3-5-8後藤ビル203	03-3844-4777 03-3803-0509
	坪倉 洋一	日本ダルク本部		
	長坂 好一	日本ダルク本部		
	森田 邦雅	東京ダルクディケア	〒110-0003 東京都台東区根岸3-18-16	03-3807-9978 03-3875-8808
	中島 清治	九州ダルク	〒812-0017 福岡県福岡市博多区美野島2-5-31	092-471-5140
下野 正健		福岡県精神保健福祉センター 所長	〒680-8066 福岡県春日市原町3-1-7	092-582-7500 092-582-7505
	古賀 初子	福岡県精神保健福祉センター		
	板井 修一	福岡県精神保健福祉センター		
	多田 薫	福岡県精神保健福祉センター		
	伊藤 智美	福岡県精神保健福祉センター		
	安高 真弓	福岡県精神保健福祉センター		
	梶畑 俊雄	福岡県精神保健福祉センター		
	藤林 武史	佐賀県精神保健福祉センター 所長		

厚生科学研究補助金 医薬安全総合研究事業
薬物依存・中毒者のアフターケアに関する研究

平成10年度研究報告書

印刷 平成11年3月31日
発行 平成11年3月31日
編集者 内村英幸
印刷所 株式会社サガプリンティング
